

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Junior Youth

【JFA プレミアカップ 2008 県大会】

vs 川和中学校 0-0△

vs J SPORTS FC 1-9●

小6

【野川杯】

▼グループリーグ

vs NKFC 0-2●

vs 南ファイターズ 2-0○

※グループ第2位で3位決定戦へ

▼3位決定戦

vs ひばり FC 1-6●

Papas Comp

【県議長杯】

▼1回戦

vs 綾瀬四十雀 0-6●

Papas O-40

【市シニア交歓試合】

vs 横浜 OB 2-1○

今、グラウンドでは・・・

Top

【港北小参加 Day】

12月16日(日)の幼児・小学生の活動に Top の選手たちが参加させていただきました。以前より計画はあったのですが、スケジュール等の都合でなかなか実現できずにいたこの企画。ようやく実現できました。Top 選手が参加したいつもと違う雰囲気の中で、子どもたちがあらためて「サッカーの楽しさ」を感じ、「うまくなりたい」という気持ちを持ってくれたらうれしく思います。とは言いながらも、実際は Top の選手たちこそ、子供たちに「サッカーの楽しさ」を思い出させてもらった感もあります。何せ、子どもたちと同じように楽しませてもらい、メンバーの中には普段は見られない笑顔を見せている選手もいたくらいですから。

さて、ここで僕自身とても「大事だな」と思った光景があります。僕が3年生の練習が始まるまで2年生の練習を見ていたところ、4年生の子が来てグラウンドの空いているところでボールを蹴って遊んでいました。このように一日中サッカーができる環境があることは子供たちの上達のためにはとても良い環境だなと思って見てい

ました。

最後に、今回はこのような機会を作ってくれたスタッフの皆さん、ユニフォーム型のストラップを作ってくれた村田家の皆さま、そしてかながわクラブの子供たちのみんな！ありがとうございました！少しずつではありますが Top チームを応援してくれる方が増えてきた今、このような形で少しでも恩返しができたら良いなと感じています。また、Top の選手が少しでもみんなのお手本になれるように頑張っていきたいと思っています。これをきっかけに今後も継続して行ってきたいと思います。皆さまからのご要望やご提案があれば遠慮なく言ってください。できる限り応えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。年が明けると、1月20日(日)からは天皇杯県予選出場権をかけた「県社会人選手権」が始まりますので、また応援してください！！(樋口 圭太)

Youth

【ゲームの見方】

今日のユースの練習に、OBの大浦純さんがひよこ遊びに来てくれました。彼とは高校卒業以来の10年ぶりの再会です。今はJリーグに關するテレビの製作のお仕事をしています。

そんな中で意見が一致したのは、テレビや新聞・雑誌の記者は、本当によくサッカーを観察していて、よく理解しているということでした。記事にするためにはよく観察し、自分なりの見解がなければいけません。記者の中にはライセンスをとり、指導者になりたがっている人も少なくないようでした。

「カカすげ〜！」「坪井だっせ〜・・・」といった見方はサッカーファンならいいでしょう。でも、選手ならば、せめて「なぜレッズはミランに失点してしまったのか？」「どうい経過でワシントンの1点目が生まれたのか」くらいは考えて分析しながら見てほしいところです。

それがわかればプレーが大きく変わってきますよ。(内田 佳彦)

Junior Youth

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならぬ」という元フランス代表監督ロジェ・ルメール氏の言葉があります。特に子どもたちの指導者にとっては非常に大切な言葉です。

現在、コーチングライセンス取得のための養

成講習会を受講中で、先日前期日程が終了しました。8日間朝から晩まで講義や実技を行いサッカーの指導について学びます。サッカー漬けの毎日で非常にハードでしたが、楽しい8日間でもありました。詳しい話は機会があればと思いますが、講習中にも出た冒頭の言葉は、常に忘れずに将来ある子どもたちの指導に携わっていきいたいと思う今日この頃です。

(二木 昭)

小 6

【トップ選手参加デー】

トップの選手が遊びに来てくれました。色々な面で手本となったはずです。来てくれた選手の中には小学生から、またはジュニアユースから、またはユースから、かながわクラブでサッカーをやっている選手が多くいます。そういった選手(他の選手もですが)が多いので、何年も神奈川県1部リーグという高いレベルでサッカーが出来るのだと思います。

諦めずに努力していればトップ選手以上に優れた選手になれるかもしれません。その可能性は全員が持っています。サッカー人生は小学生で終わるわけではありませんので、これからも、臆せず、自信をもって積極的にサッカーに取り組んでください。

【最後の県大会】

1月13日から県大会が始まります。最後の大会にもかかわらず、私事で大変申し訳ありませんが、仕事の都合でどうしてもいくことが出来ません。本当に申し訳ございません。みんなが1、2回戦勝ってくれることを願っています。

6年生にとっては小学生最後の大会です。各々が後悔しない様に、失敗を恐れず、積極的にプレーして欲しいと思います。失敗は全員でカバーすればいいのです。今出来ることを怖がらず実行すれば、意外とできるはずですよ。頑張ってください。

みなさま、良いお年をお迎え下さい。

(益子 伸孝)

小 5

今年もあと少しで終わりです。今年一年大変お世話になりました。

私の年末年始は、アルバイトと1月から大学の試験やレポートがあるのでとりあえず単位が取れるよう一生懸命勉強したいと思います……(泣)。

学生の皆さん！！宿題・課題は早めにやりま

しょうね。後に残すと大変ですよ！

今月の8・9日に5年生はつるま育成リーグに参加しました。午前中は、チーム対抗戦で午後は参加選手全員を混ぜての試合が行われました。対抗戦の結果は優勝という結果がでましたが、「味方がもったらサポートに入る」・「ボールをもらう前に周りを見る」・「一発で飛び込まない」など益子コーチや私がいつもうさいくらい選手たちに言っていたことがちゃんとできていたか？という、完璧に出来ているとはいえませんが。

6年生になる前に1つ1つ出来るように来年から頑張りましょう。新人戦はもうすぐですよ！！

最後に2日間、遠い所子供たちの応援をしてくださった保護者の皆様ありがとうございます。

【冬休みの宿題！？】

かながわクラブの練習がない期間空いた時間にリフティングなどでもいいのでボールに触る時間をとってみてください。少しでもやっておけば自分のレベルUP、年明けの練習への入り方などが変わってきますよ。では、よいお年を！！(丸山 祐人)

小 4

【言語技術を磨く！】

日本のスポーツ界初の試みとも言われているエリート教育が一昨年からJFA アカデミー福島(Jビレッジ)において行われています。サッカー界のみならずさまざまな社会の中でも、世界基準で将来リーダーとして活躍できる人材を育成することを目標として開設され、間もなく3期生を迎えようとしています。

このアカデミーで最も重視されていることが言語技術を磨くということなのです。言語技術というのは、情報を取り出し、解釈し、自分の考えを組み立て、判断する力を養っていくことにほかなりません。具体的には、論理的に思考したり、客観的に自己を表現する能力であったり、正確に相手に情報を伝えることであったりします。人間がものを考える時には、ことばを介して行います。当然、ことばを知らなければ考えることはできません。恐らく、地球上の生物の中で唯一ことばを持つ人間のみが考えることができるのもこうした理由からなのでしょう。このようにことばと考えることは非常に密接な関係になっています。ことばを疎かにしては、よりよく、そして深く考えることもできないのです。

【賢い子が上手くなる！】

フランスには、日本のアカデミーのモデルとも言うべき国立サッカー学院という組織があります。そこで30年間にわたり子どもたちを選抜してきたクロード・デュソー氏が、最終選考の段階で重視する基準は「賢いかどうか」なのだそうです。賢い子どもは学習能力が高く、その学習能力の高さがサッカーを上達させていくというのです。そこには言われたことを正確にできることか従順さかかはほとんど評価されません。「考えない選手」「自分で判断できない選手」は全く必要とされないのです。子どもの頃から論理的に考える習慣が身につけていけば、たとえ失敗しても、その原因を学習する能力が備わっているはずですよ。考えながらサッカーをしていれば、自ら「じゃあ、次はこうしよう。それがだめだとしたらああしよう」と、さまざまな局面について、多彩にフィードバックすることができます。一方、何も考えず、指導者に言われた通りにしかやってこなかった子どもは、失敗の原因すらわからず、同じ失敗を繰り返すことになるでしょう。

【低年齢から考えるサッカーを】

では、どうすれば子どもたちは考えながらサッカーをするようになるのでしょうか。簡単に言えば、「習慣化」ということになるでしょう。例えば、1試合の中で、子どもたちがボールに触れる回数を測定すると、多い子で約100回、少ない子では30回程度と言われています。ボールとコンタクトする回数、その一つ一つの機会に、論理的に考えているかどうか、それによって、考える力は大きく変わっていくはずですよ。更に年間を通して比較してみましょう。フィードバックして考える回数は、何も考えないでプレーしている選手と、実に何万回もの差になっていくのです。それだけではありません。これに練習の場面での一つ一つのボールコンタクトも含まれていくのです。

賢い親御さん方は、子どものときから「考えるサッカー」に取り組んでいない限り、まともなサッカー選手にはなれないことに、すぐに気づかれることでしょう。「めっちゃ蹴り」ということばに代表されるような意図のないプレーは早く子どもたちのサッカーを取り巻く環境から消え去るべきですよ。周囲の大人たちは、考えながらプレーをする子どもたちを温かい目で見守り、そして、子どもたちの選択したプレーを尊重し、考えながらプレーをする姿勢を評価しなければなりません。かながわクラブの子どもたちに限らず、子どもた

ちには、「考えるサッカー」が自然にできる選手に育てて欲しいものです。

【きちんとした会話を！】

子どもたちに考えながらプレーをさせるために、普段から注意・叱責・悪口雑言ではなく、様々な場面でプレーの理由を問いかけることにしています。特に、試合の中でミスした子どもには、できるだけ早い時期に、できればその場で、問いかけるようにしています。先日の総合型地域スポーツクラブ交流会の試合の場面でも、ある子は、「実は自分の前にいる味方の子が突然ボールをよけてしまったので、自分是对応ができなかった」と、試合中ではありましたが、理路整然と答えてくれます。またある子は、苦笑いを浮かべた表情で、問いかけに対しては、あまり自分の胸のうちを言語化せずに次のプレーに向かいます。後者の子は、もしかしたら指導者のことばの中に何か非難めいたニュアンスを感じ、心を閉ざしてしまったのかもしれませんが。これは指導者として大いに反省すべきことで、常に、子どもたちが意見を述べやすい環境、雰囲気作りを心がけなければならないでしょう。

しかし、意図のないプレーで何も答えられなかったのか、あるいは意図はあったけれども上手に表現できずに苦笑いになってしまったのかは、その後の対応が大きく違ってきます。仮に前者であったなら、考えながらのプレーを練習させるようにしなければなりませんし、後者であったら考えたことを言語化する訓練をさせなければなりません。

意味のないプレーは説明ができませんが、狙いや意図のあるプレーは、そのプレーが成功したか失敗したかにかかわらず、その理由を語ることはできるはずで。

【答えは一つではない！】

サッカーではこうしたら絶対に勝てるということはありません。一つ一つのプレーにしても正解が一つとは限らないのです。しかし、どうも最近の子どもたちは「正解は一つ」、「正か誤かの二者択一」という学習に慣れすぎているのか、「なぜそうしたの?」とか「どうすればいいと思う?」という問いかけに対しては、控えめな日本人の気質のせいか、間違えることを恐れて自分の意見をはっきりと表現することを避ける傾向にあります。また、子どもが大人に対して意見を述べることを生意気だと感じる土壌があることも事実です。しかし、浦和レッズがACミランとガチンコ勝負をする時代です。狭い日本という島国だ

けでサッカーをしているだけでは夢がありません。世界で通用するサッカー選手になるためには、常に論理的に考えながらプレーをし、刻々と変わる状況の中で、迅速で、正確な判断ができるようにならなければなりません。それには、小学生年代から(サッカーを始めた瞬間から)考えながらプレーをする習慣、そして自分の意見をきちんと言語化する習慣を身につけることです。(佐藤 敏明)

小 3

【試合に勝つための練習?】

最近では、他チームと試合をする機会が多く、毎回子供たちは非常に良い経験を積んでいると思います。結果としてなかなか勝つことができない状況にはありますが、私の中では特に心配はしておりません。ゲームを外からご覧になればお分かりだと思いますが、3年生はポジションを決めてゲームに臨むようなことはしていません。

現状では、「いつスピードを上げるのか、どうして味方同士離れるのか、ボールに寄って行ってはいけないのか、ボールの反対側を覗いておく」など、プレーの本質的な部分を伝える方を優先しております。

子供たちには、ゲームの前に以下のようなことを話しています。

(攻撃)

ボールをスペースに運んで、シンプルにゴールを狙うこと。そのためには、ボールを持っていない選手はボールから離れること。

(守備)

相手ボールの時は、ボールにプレッシャーをかけ続けて前に蹴らせないこと。そして、横パスが出たタイミングでボールを奪えるように人をつかまえておくこと。(手で触れる距離をとってマークしておく)

↓

攻守において、これらのテーマをクリアするためには、

(ボール保持者)

相手ゴールを意識しながら、ボールを受けたらまずは前を向いて止まってみること。

(ボール保持者以外)

ボール以外に、相手・味方・スペースの状況を観ておくこと。

日頃のトレーニングというのは、『試合で良いパフォーマンスができること』に主眼を置いたものでなければいけないでしょう。練習のための

練習であったり、試合に”勝つため”の練習ではいきません。現状をご理解頂き、グラウンドにおきましては、引き続き励ましの言葉をかけてくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

(鈴木 章弘)

小 2

今年もあとわずかで終わりですね。年末のお忙しい時期ではありますが、風邪など引かないよう体調には充分気をつけて下さい。

今月の初めに宮崎県にサーフトリップに行ってきました。今年一躍ブレイクした東国原知事がいる県です。他県からもサーフィンをしに来る位の有名な県です。宮崎に着き早速海に向かいました。天候も抜群！水温も暖かい！さあ入るぞお〜と勢よく入りたかったのですが波を見てガッカリ・・・ほとんどありません。まあ初日はこんなもんだろと自分に言い聞かせ明日に期待！しかし2日目、3日目と良い波に当らず終わってしまいました・・・

こうなったら楽しみは食です。せっかく宮崎まで来たのだから宮崎牛、地鶏、チキン南蛮、全て食べてやりました。特に宮崎牛ステーキのおいしさにはビックリしました。180g、3,680円!!!今まで生きてきた中で最高値のお肉です。言うまでもなく最高でした。お腹も満たされ空港へ、時間もまだあったので空港内のソファで一休み、疲れもあったのか自分も含めみんなスヤスヤ・・・。「ああよく寝た、今何時?」「ええ〜今・・・」ああああああああああ!!!男4人乗り遅れました・・・その後の事はご想像にお任せいたします(涙)

話をサッカーに戻しましょう。私の近所でもサッカーをやっている子供たちが沢山います。公園で一緒にサッカーをすることもあります。子供たちの話を聞くと結構面白いです！その時の話題は習い事について、サッカーの他にも水泳、体操、ピアノ、ここまでは納得。子供によってはバスケット、野球、バレー、剣道、空手！これにはビックリです。サッカーと野球を一緒にやる時代に!？出来ることなら沢山のスポーツ、習い事をやることは良いことだと思います。子供の頃から色々なスポーツを経験することによってサッカーには無い面白さ、楽しさを知ること出来ますし、それをサッカーに活かすこともできると思います。ぜひ今のうちから色々チャレンジすると良いと思います。まだうちに秘めているものがあるかもしれません。

ちなみに私はサッカーと同時に水泳、体操、

ボーイスカウトをやっていました。ボーイスカウトはお勧めです!!! (鞍川 潤一)

幼児・小1

【楽しくサッカーをするために】

12月2日、16日の2日間、指導者講習会に参加してきました。その中で(既にご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが)、あの中村俊輔選手についての興味深いエピソードの披露がありました。今回、講師であった旭高校の広瀬先生は中村選手が高校生当時から国体選抜などで交流があるそうなのですが、その中村選手が「行き詰ったり落ち込んだりした時、今でも決まってること」をするのだそうです。それは『自分が小さかった時のビデオを見ること』。無邪気にボールを追いかける姿を改めて見ることで、楽しかった時のことを思い出し気持ちをリフレッシュするのだそうです。大きな期待を背負っている中村選手であるがゆえにぶつかる壁もプレッシャーも相当大きなものだと思えますが、その中村選手の原点も間違いなく「楽しくサッカーをする」ところにあるのだそうです。その話を聞き、小学生年代の子供たちに関与する自分がすべきことを改めて考えさせられました。実際にはいつも子供たち全員に「本当に楽しかった」と満足してもらうことはなかなか難しいのですが、ここ最近の6年生、Topの選手との交流などのような「楽しくサッカーができる」企画をスタッフ間でも考えながら進めたいと思います。

【はや年末。。】

そういえば寒くなったな、と思ったらもう12月。。保護者の皆様には今年1年お世話になりました。来年も宜しく願い致します。

Merry Christmas and Happy New Year!

(小野 津春)

Papas

【2007年かながわクラブ 四十雀リーグ戦総括】

<Rec(4部)>

【データ】

3勝8敗2分 勝ち点11、得点13、失点31、得失点差-18→14 チーム中11位

(昨年:11試合4勝4敗3分 勝ち点15、得点12、失点18、12チーム中7位)

①平均参加者数:13.5名(24名中)

②全試合参加:三宅

③得点者:1位大野木(5点)、2位中島(3点)、3位岡田(2点)、4位五十嵐・内田・太田(各1点)

【総評】

昨年より2チーム増えて14チームとなった4部リーグで11位という成績は、決して満足できるものではありません。4位の足柄上(2-2)、6位の鎌倉(2-2)のように上位チームにも互角に戦えただけに、コロコロ戦(0-1)、大和戦(1-2)はあと一步のところまで勝利を逃してしまった感があり、残念な結果となりました。参加者数が少なかったことが試合結果に少なからず影響を与えています。開幕2連勝の参加者数は15名、17名。最後の6試合では11名2回、12名3回、14名1回で、0勝5敗1分となりました。怪我や病気は仕方ないことです。メンバー全員が仕事でも家庭でも中心となる立場ですから、毎回参加も難しいと思います。それでも、24名中常に14~15名のメンバーで入れ替えをタイミングよく行えば、レックはまだ結果を残すことができると思っています。勝利至上主義ではありませんが、試合をやる以上は、勝ちにいく状況へチームを出来る限り整えて臨みたいと思います。勝利至上主義ではありませんが、試合をやる以上は、勝ちにいく状況へチームを出来る限り整えて臨みたいと思います。日程調整、体調管理に今年以上に積極的に取り組んでいただきたいと思っています。全試合参加の三宅さんには、審判担当以外にも、荷物・用具の運搬をしていただきまして、本当にありがとうございました。また、相乗り車提供、用具運搬、審判担当を快く引き受けていただきました皆様にも心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

【課題】

昨年来の課題であったボールウォッチ(ボールばかり見てしまうためにマークをはずしてしまう、次の展開を予測できなくなる)の傾向は徐々に少なくなってきました。それには、参加者数の関係から各自のポジションを固定して試合に臨むケースが多かったこともありますが、2年目を迎えて、各自の経験値が上がり、その結果、周りを見る余裕が増えたことが要因だと考えられます。しかし、ボールをコントロールする・蹴るといった基本技術は、プレー経験年数・年齢・筋肉の要素からも本質的には向上しにくいものです。それでも、多くの試合をこなしていくにつれて、予備動作・身体の向き・タイミングといったものが徐々に向上してきました。その意味では、来年からも「一つでも多く」「少しでも長い時間」自分の思い通りのプレーができるようになることを目標として、メンバー全員が楽しめる試合をして

いきたいと思います。(浜野 正男)

<Comp(2部)>

【データ】

5勝5敗1分 勝ち点16、得点17、失点16、得失点差+1

11チーム中6位で終了しました。

① 平均参加者数:12.5名(昨年比1人減)

② 全試合参加:宮内、稲垣、寺田、桐生、柴田、中山(6名)

③ 低参加率者:A(27.3%)、B(33.3%)、C(45.5%)、D(54.5%)

④ 得点者:1位篠原(6点)、2位渡辺(4点)、3位田代(2点)*以上3名で全得点の70.6%です。

⑤ 得点状況:前半(58.8%)、後半(41.2%)*若干ですが、前半型です。

⑥ 失点状況:前半(18.8%)、後半(81.3%)*交代要員が少なく、疲れからか後半に失点しています。

⑦ 得点パターン:流れの中(12点/70.6%)、セットプレー(5点/29.4%)*セットプレー内にOG(1点)含む

【総評】

全試合参加の6名の方、お忙しい年齢でありながら、調整をいただきありがとうございました。2部リーグは、かなり戦力が均衡していたこともあり、8月前までの前半戦を3勝2敗だったことは、残りの相手を考えると1部自動昇格に望みがありました。

ところが、9月以降の後半戦は2勝3敗1分とやや失速してしまい、6位でした。

参加率を見ても、前半戦は13人/試合でしたが、後半戦は12人/試合でした。特に攻撃面での影響を受けたと思います。

2部リーグは、相手のレベルも高く、基本動作(止める/蹴る)がしっかりしたチームが多く、攻めていても逆襲されたり、守りの時間も長くなり苦しい時間を耐えられないこともありました。

サッカーの基本動作の向上を図るよう、来年に向けて各人テーマを持って今後の練習や試合に望んでいただければと思います。

スピードにも今までよりも差があったと思います。特に、判断のスピードです。ボールを受けてから考えると寄せが速く、詰まってしまうケースが多いように感じました。

年々筋力は落ちてきますが、頭を使ったプレーを心がければ解決できると思います。

今年は、イエローカード無しで臨みました。最

終試合に2枚ありましたが、それまでは、フェアプレーで非常によかったと思います。Papásからサッカーを始めた方を含め、皆さんかなり上達をしています。来年も更に上を目指しながら、自信を持って壮年のサッカーを楽しみましょう。(中山 泰宏)

Mistral

今年の春から体力低下を気にして主人と友達と私の3人で山歩き、ハイキングを初めた所、美味しい豆腐が食べたいと軽い気持ちで大山に出かけました。

行ったついでに阿夫利神社にロープウェイで行きました。帰りは歩いて帰ろうという事になったのは良かったのですが、下りの階段の多さに、おじさん2人の膝がガクガクになり途中の不動前駅からロープウェイに乗り帰る事になりました。

豆腐、湯葉は美味しかったです。家に帰ってから、なんか悔しいなと思い再度チャレンジに11月の連休に出かけました。

今度は頂上に行くことと決め頂上に行く急な階段を見上げながら大変だけど頑張り頂上に着きホッと、見ると多くの人と3匹の犬が昼ご飯を食べながら眺望していました。

あいにく暖かい日で遠くの視界は霞んで見え残念でした。下って阿夫利神社に戻った時は、又々おじさん2人の体力不足が出始め、再びロープウェイで帰りました。本当に残念であります。

私はサッカーしてて良かったと思いました。足に負担は感じませんでした。又、新しい目標は富士山にチャレンジしようと思っていますが2人のおじさんが途中断念しないように願うばかりです。(中島 恵子)

ヨーガ

【太陽礼拝】

年末ですね。街を飾るクリスマスイルミネーションに誘われて、寒さにも負けずに夜のお出かけをしたくなってしまう。

そうなのです。クリスマス会や忘年会、そして新年会とこの季節は何かと食べる、そして飲む機会が多いですね。その結果、年明けにはなんとなくお腹のまわりがプクプクとしてしまう。これを、なんとか予防したいものです。

そこで、今年是对策を立てました。「太陽礼拝」です。サンスクリット語では「スーリア・ナマスカーラ」といいます。12種類(10種類の流派も

ありますが)のポーズを流れるように連動して行うヨーガのひとつです。日の出(または日没)に太陽に向かって行うのが本来の姿なのですが、現代ではヨーガのクラスで日常的に使われています。太陽礼拝を行うと、体が暖まり血行が良くなります。頭も心もスッキリとして一日を迎える準備が整いとても気持ちの良いものです。インドのアシュラム(ヨーガ道場)での生活でも欠かせないものでした。

この太陽礼拝、実はただすっきりするだけでなく、体の代謝をアップする効果があると言われています。つまり、体の消費エネルギー量が増えるわけですね。こんなに良いものがあるのに使わない手はありません。今期の最後のヨーガレッスンでは太陽礼拝を行ってみました。やり方を書いたプリントもお配りしたのですが、皆さんやってくださっているかしら?

今年もお世話になりました。このお休みに太陽礼拝を実践して、新年にはますます「ナイスバディ」となった皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。どうぞ、良いお年をお迎えください。(伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【カカ】

今年もクラブワールドカップの運営のお手伝いをさせていただきました。

今回の注目の的はやはり「カカ」。予想どおりの大活躍でした。

今まで一流と言われる多くの選手の試合前の入場時の表情をすぐそばで見ましたが、やはりカカもそれなりの雰囲気をもっており、それがひしひしと伝わってきます。

古くはヒデ、カーン、フィーゴ、プジョル…。皆圧倒的な存在感を持って待機し、音楽とともに入場します。彼らのその時の雰囲気とその日の状態がわかるようです。

そういった意味で、去年の同大会決勝戦のロナウジーニョは予想どおり今ひとつ精細を欠いた気がします。

さて、カカに関しては以前皆様に、少年時代に日本で初めて賞金を手にしたこと、それを今でも大切にしていること、その送り主が本クラブと懇意にさせていただいている塩釜FCの小幡理事長であったことをご紹介させていただきました。なので、今回は勝手に小幡理事長のブログから記事を転用させていただくことにしました。

小幡さん、ごめんなさい。電話が通じなかったもので…。(内田 佳彦)

■2007年12月17日「カカ」が天下を取る

昨日のトヨタカップをテレビで観戦。「カカ」の大活躍に大興奮。1993年に宮城県鳴子町を中心に交流試合をした選手の中から世界一の選手が出るとは夢のようです。今日は、スポーツニッポンの紙面にその時のことが紹介され、朝から電話が鳴りっぱなし。

今日は、サンパウロFCを招いていただき夢を実現させていただいた「たかともワンダーファーム」の社長さんに御礼の電話をいれ、「カカ」の思い出話をさせていただきました。

実は、当時のプログラムとビデオの中での選手紹介に「カカ」の名前がなく、不安な状態でしたので尋ねたところ。通称「カカ」で正式な名前は

「リカルド イゼクソン S レイテ」だそうです。そういえば、あのサッカーの神様「ペレ」も本名が長かった。

面白い話が、通称「KAKA」は「CACCA」が正式で、イタリア語では「うんこ」と訳すので「KAKA」に変えたそうです。こんな裏話も長くサンパウロFCと交流させていただいたお陰です。

今日も、当時のビデオを見ながら思い出にふけています。そして塩釜FCから世界に通用する選手を育てて生きたいと思います。